

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 12 日現在

機関番号：12501

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2010～2013

課題番号：22390440

研究課題名(和文)生活と医療を統合する継続看護マネジメント能力を育成する教育プログラムの開発と検証

研究課題名(英文)Development and verification of an educational program which raise the continuous nursing management capability to integrate an own life and medical treatment

研究代表者

長江 弘子(Nagae, Hiroko)

千葉大学・看護学研究科・特任教授

研究者番号：10265770

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 14,800,000円、(間接経費) 4,440,000円

研究成果の概要(和文)：我が国の高齢化と慢性疾患の増加に対応した地域包括ケアシステムの構築が求められている。その一役を担う看護師はその人の生活と必要な医療とを統合しケアシステムを作り上げる実践の思考枠組みとして継続看護マネジメント能力が必要とされる。しかし、いまだ実践知は構造化されていない。そこで、本研究の目的は、その人の生活と医療を統合する継続看護マネジメント能力を明らかにしその体系的な教育プログラムを開発することとした。継続看護の文献レビューと実践事例から継続看護マネジメントモデルを検証しモデルに基づいた体系的な継続看護マネジメント教育プログラムを実施・評価することができ、これらの開発過程を書籍として発行した。

研究成果の概要(英文)：Due to the increase of our countries aging population and related chronic disease, there is a call for buiding a community comprehensive care system. Nurses, who play a role in it, are required to have the continuing nursing management ability where they integrate a person's life and necessary medical care as a framework for practical thought that makes up the care system. However, the practical knowledge hasn't yet been struvtured. Thus, the purpose of this reaserch is to define the continuing nursing management ability that integrates the person's life and necessary medical care, and to develop a systematic educational program. We were able to validate the continuing nursing management model from a review of continuing nursing literture and practical case study, and execute and evaluate syystematic continuing nursing management educational program baesd on that model. We then published a book on this development process.

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学、地域・在宅看護学

キーワード：継続看護 看護マネジメント 地域包括ケアシステム 教育プログラム プログラム評価

## 1. 研究開始当初の背景

我が国では超高齢社会化と慢性疾患の増加に対応した新たな医療やケアの在り方が求められており、その一つとして地域包括ケアシステムの構築が求められている。

人々が住み慣れた地域で暮らし、安心して安全な療養を継続できる医療提供体制を作り上げて行くためには、その人と家族の生活と必要な医療とを統合するケースマネジメント (NCM: Nursing Case Management) が重要である。その中心的役割を担う看護師はその人の生活と必要な医療とを統合しケアシステムを作り上げる実践の思考枠組みを強化しなければならないと考える。地域社会に求められる新しい医療やケアに対応した看護実践と人材育成を理論的に構造化し、看護基礎教育のなかでも、特に在宅看護学教育に反映していく必要がある。

ケースマネジメントは決して新しい言葉ではない。わが国では継続看護としてその意味が伝えられてきた。しかし、従来の継続看護は包括的な意味で定義され、近年の動向では退院調整やケアマネジメントという個々の実践として体系化されつつある。しかし看護師が担う本質的な実践知は構造化されていない。それゆえ、時代や社会の変容とともに変わりゆく継続看護の意味と実践を問い直すことによって、これまでの看護実践に新たに強化すべき実践能力を明確化することにつながるのではないかと考える。また、多様な療養場で行われる看護をつなぎ、場を超えて一貫した質の高い看護を提供する高度な実践能力として示すことも可能である。さらには多様な場で支援する看護師が共通して持つべき思考枠組として提示でき、新たな時代に対応した看護の専門性の発展に寄与できるものと考えられる。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、その人の生活と医療を統合する継続看護マネジメント能力を明確にし、さらに継続看護マネジメント能力を持つ看護師を育成するための体系的な教育プログラムを開発することである。

この目的を達成するために、以下の3点を段階的に明らかにしていくこととする。

- 1) 継続看護マネジメントの概念構造を明らかにする。
- 2) 継続看護マネジメントモデルの検証をする。
- 3) 体系的な継続看護マネジメント教育プログラムを実施、評価する。

## 3. 研究の方法

目的1) 2) 3) の順に方法を述べる。

目的1) の研究方法は概念分析の手法を用いた。その理由は継続看護の特性として病院の外来、病棟、地域の訪問看護ステーションや診療所など様々な場面で必要とされている。様々な組織の文化、地域の文化に影響を

受け、必要とされるケアは日本独自の価値や文化に根差した実践が必要とされると考えられる。ロジャーズは、概念は各個人がおかれた社会的文脈を指針として、それに沿って発達すると述べている。それゆえ、概念分析の方法は、Rodgers の概念分析の方法を用いた。

年代は介護保険制度が開始された2000年から2011年までとし、医学中央雑誌のデータベースを用いた。key words は「ケースマネジメント」「ケアマネジメント」「継続看護」「退院支援」「退院計画」「高齢者」で絞り込み85件を収集した。それらのうち、看護師が行った継続看護について記述された論文を選択し54件を分析対象とした。

目的2) の研究方法は、実践事例を活用して概念モデルを検証するケーススタディ法を用いた。実践事例に適用し、継続看護実践とは、どのような場面で活用し、どのような意図を持って看護師が判断し行為へと結びつけるのか、その意図と行為とのつながりを事例分析するという方法である。事例の選定は概念の特性を最も反映すると思われる様々な時期や状態、療養の場の移行を含め9事例を選定し、時間的な流れとともに何を継続しているのか、その時看護師は何を考えたのかについて事例提供者の内省を基に分析した。

目的3) 最終年度の12月と3月に継続看護マネジメントモデルを看護師教育セミナーとして開催し、教育プログラムの企画・実施・評価を行った。プログラム評価は、セミナー終了後質問紙調査を行った。

## 4. 研究成果

目的1) の成果として、看護師の行う生活と医療を統合するケアマネジメントの特性は、先行因子として、「地域包括型医療ニーズの増大」「患者中心のケア、QOLの重視の医療の高まり」「病院の機能分化」があり、特に「複雑な家族環境にある人」「慢性的・進行的病状を持つ人と家族」に焦点当てた看護実践であることが示された。特徴的な看護実践は「ケアの対象となる人の選定」「病院のコストと質の高いサービスのバランスをとる退院計画」「個別化した今後の生活での問題の同定」「患者の状態とサービス機能のモニタリング」を通して、「病状の安定」「患者・家族の自立による療養生活の安定」「サービス満足度の上昇」「患者管理コスト抑制」「スタッフの満足度の上昇」などの成果を生み出すものとして概念化された。

この概念を基盤に生活と医療を統合した継続看護マネジメント能力を育成することは、患者・家族の療養生活の安定のみならず、ケア提供者の育成や病院のコスト管理にも有効な成果を生み出すものと考えられた。

この結果を教育プログラムの基本的な考え方として、日本の実情に合った看護師教育のプログラムとして開発していくことが重

要である。そのためにはこの概念を日本の看護実践に照らし合わせ、日本の実情に合った看護実践として概念化するため、の結果統合し、「継続看護マネジメント(仮)」概念を精選することが重要である。概念の現実性の評価を行った結果、日本に特有の側面には家族とともに生活する上での療養の場の選択、治療やサービス利用の選択など家族と患者の合意形成によって家族として新しい関係形成などが特徴として見出された。これらは国内及び国際学会での発表で我が国の特色として関心が持たれた。

以上のことから、欧米諸国では病院のコスト管理や費用効率化に重点があったのに対し、我が国の生活と医療を統合した継続看護マネジメントとは、患者と家族が共に暮らすことに和解し、協働生活にむけた支援プロセスに焦点があることが明確となった。よって我が国独自の生活文化に合った看護実践として概念化することができたと考える。

目的2)の成果として、継続看護マネジメントの概念モデルの適用性を示す事例を選定した。それは、継続看護マネジメントを必要とする場面、タイミングを実践の焦点(先行要因)とし、継続看護実践(属性)その結果(帰結)を分析結果として示すことができた。事例は、多様な療養の場や重症度の異なった対象群、すなわち、一人暮らし高齢者の糖尿病管理、外来通院中の心不全患者の入院回避、神経難病患者の退院支援と終末期の意思決定支援、がん終末期の見取り等を含む8事例が典型事例として見出された。各事例の実践の焦点は、2から3時点あり、それぞれに特徴だった看護実践内容と結果が示された。病状経過とそれに伴った生活の変化という時間軸に沿った持続的な看護実践とその結果は表と図に示し実践の書としてまとめることができた。

目的3)の成果として、継続看護マネジメント実践セミナーとして、2回のセミナーを開催し、参加後の質問紙調査によりプログラム評価を行った。2回のセミナーは合計60名の参加者があり、質問紙の回答があったのは42名(回答率70%)であった。それによれば、継続看護マネジメントの理解については、おおむね理解できたと回答され「退院支援との違いを理解できた」「看護師が何を目的に退院支援しているのかに気づいた」「今後重要な看護師の思考である」と80%の参加者が回答した。このことから看護実践を振り返り新しい概念理解に役立つ考え方とプログラムであると評価されたと考える。

一方概念モデルの提示方法についてはモデル図について「カテゴリの位置づけに違和感がある」「ワークシートの使い方がわかりにくい」「理解するには時間が足りない」などが記述され、教育プログラムの企画および教材については課題が残された。今後これらの改善をしつつ、継続看護マネジメントの概念モデル実践適用に向けたモデルの精選と

それに基づいた教材開発が必要であると考える。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 18 件)

長江弘子. 育てたい「継続看護マネジメント」という看護師のまなざし.看護展望.(査読無).39(5).14-19, 2014.

Katayama Y. Nagae H. Sakai M: The Training Evaluation on the Nurses of the Continuing Nursing Management Educational Program in Japan. The Business & Management Review.(査読有).4(4).172-173.2014.

Nagae H. Tanigaki S. Okada M. Katayama Y. Norikoshi C. Nishina Y. Sakai M: Identifying structure and aspects that 'continuing nursing care' used in discharge support from hospital to home care in Japan. International Journal of Nursing Practice. (査読有)19. 50-58. 2013.

長江弘子.「退院支援力」の質を高めるエンド・オブ・ライフケアの視座.地域連携入退院支援.(査読無).5(6).71-76.2013.

長江弘子.吉本照子.辻村真由子.保坂和子.自律的な訪問看護師を育成する.看護学基礎教育と現任教育とのシームレスな協働的継続教育の提案.看護教育.(査読無).54(10).920-926.2013.

田代真理.山田雅子.宇都宮宏子.吉田千文.長江弘子.内田千佳子.廣岡佳代.福田裕子.「退院調整看護師養成プログラムと活動支援」研修プログラム修了者に対する交流会の報告.聖路加看護大学紀要.(査読有)39号.61-64.2013.

谷垣静子.長江弘子.岡田麻里.保科英子.國平茂子.前川珠木.安藤弥生:退院支援に取り組むスタッフをサポートする病棟師長の組織的な取り組み.看護展望.(査読有).38巻8号.0780-0783.2013.

長江弘子.吉本照子.辻村真由子.松永敏子.山木まさ他:「協会」「大学」「ステーション」で協働する千葉県の地域連携型人材育成の試み<第2報>.学習支援体制を現場でつくる!「新卒訪問看護師育成プログラム」の開発.訪問看護と介護.(査読無).18(4).313-319.2013.

長江弘子:患者・家族の生活文化に即したエンド・オブ・ライフケア. Nursing Today. (査読無).28(3).8-15.2013.

長江弘子:地域社会に求められる看護師の育成を目指した教育・研究・実践.看護教育.(査読無).53(9).766-772.2012.

〔学会発表〕(計 15 件)

Sakai M. Norikoshi C. Tanigaki S. Katayama Y. Nshina Y. Okada M. Nagae H.: The Training Evaluation of the Continuing Nursing Management educational program for elderly care in Japan. New Zealand Gerontology Association Conference. 12-14 September. Dunedin (New Zealand).2014.

Katayama Y. Nagae H. Sakai M.: The Training Evaluation on the Nurses of the Continuing Nursing Management Educational Program in Japan. International Conference on Business & Economic Development (ICBED).New York (USA).24-25 March.2014.

谷垣静子.乗越千枝.長江弘子.仁科祐子.岡田麻里.訪問看護師が働き続けられる訪問看護ステーションの特徴.第 33 回日本看護科学学会学術集会.12 月 2 日.(大阪).2013.

片山陽子.長江弘子.斉藤信也.酒井昌子.谷垣静子.乗越千枝.仁科祐子.岡田麻里.終末期における悲がんを含む慢性疾患 3 類型別にみた訪問看護師の予後予測.第 17 回日本在宅ケア学会学術集会.3月16日(茨城).2013.

谷垣静子.乗越千枝.長江弘子.岡田麻里.仁科祐子.マグネット訪問看護ステーション管理者の組織育成に関する研究:第 17 回日本在宅ケア学会学術集会.3月16日.(茨城).2013.

長江弘子.谷垣静子.乗越千枝.酒井昌子.仁科祐子.岡田麻里.生活と医療を統合する継続看護マネジメント(仮)概念の検討.第 16 回日本在宅ケア学会.3月18日(東京).2012.

Nagae H. Tanigaki S. Okada M. Katayama Y. Norikoshi C. Nishina Y. Sakai M.: Integrating Nursing Process & Outcome of Nursing Case Management for the primary Care: a Concept Development,1st NUS-NUH International Conference. 18 November. Orchard Hotel (Singapore). 2011.

Nagae M. Nagae H.: Predictive Approach of Vising Nurse to Control Blood Sugar of elderly Diabetic Patients with Complications:1st NUS-NUH International Conference. 18 November. Orchard Hotel (Singapore). 2011.

谷垣静子.長江弘子.酒井昌子.乗越千枝.仁科祐子.岡田麻里.生活と医療を統合する継続看護実践能力を育成する教育プログラムの開発.第 36 回日本看護研究学会 8月20日(岡山).2010.

〔図書〕(計 1 件)

長江弘子(編集著者).谷垣静子.乗越千枝.片山陽子.酒井昌子.仁科祐子.岡田麻里.生活と医療を統合する継続看護マネジメント.医歯薬出版.2014.pp180 (1-9,24-45,100-108)

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

長江 弘子(NAGAE, Hiroko)  
千葉大学・大学院看護学研究科・特任教授  
研究者番号:10265770

### (2)研究分担者

谷垣 静子(TANIGAKI, Shizuko)  
岡山大学・保健学研究科・教授  
研究者番号:80263143

酒井 昌子(SAKAI, Masako)  
聖隷クリストファー大学・看護学部・教授  
研究者番号:60236982

乗越 千枝(NORIKOSHI, Chie)  
岡山大学・保健学研究科・准教授  
研究者番号:70389500

片山 陽子(KATAYAMA, Yoko)  
香川県立保健医療大学・保健医療学部・准教授  
研究者番号:30403778

### (3)連携研究者

仁科 祐子(NISHINA, Yuko)  
鳥取大学・医学部・講師  
研究者番号:70362819

岡田 麻里(OKADA, Mari)  
県立広島大学・保健福祉学部・講師  
研究者番号:90534800